

第2章 第1次推進計画における取り組みと成果及び課題

1 家庭・地域における取り組みと成果及び課題

(1) ブックスタート事業の継続充実

平成14年度から進めているブックスタート事業は、市の育児学級において、市立図書館の司書が3ヶ月児の保護者を対象に継続的に実施しています。

絵本を1冊手渡すことにより、絵本の大切さや読み聞かせの必要性を保護者が認識することで、家庭で読み聞かせを始めるきっかけとなることを目的とします。ブックスタートは、乳幼児と本の出会いをつくと同時に、絵本を通して乳幼児と家族が触れ合える良い機会となっています。

〈ブックスタート配布実績〉

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
対象人数	271人	239人	247人	224人	251人
配布人数	232人	191人	215人	155人	185人
配布率	86%	80%	87%	69%	74%

配布絵本を持っている場合や育児学級を欠席した場合は、市立図書館で予備の絵本を受け取る方法をとっていますが、約2～3割の保護者が受け取りに来ていません。

1人でも多くの乳幼児と保護者に絵本を受け取ってもらうためには、配布方法や配布絵本の見直しが課題です。

(2) セカンドブック事業の開始

平成23年度から開始したセカンドブック事業では、3歳児に山梨市教育委員会で作成した絵本「こころの絵本 さっちゃんの日」を贈っています。

この本は、主人公さっちゃんの日を通して、家庭や保育園などでの人との関わりや生活を知り、幼児期に道徳性の芽生えを培うことを目的としています。

〈セカンドブック配布実績〉

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
対象人数	273人	289人	282人	275人
配布人数	260人	267人	269人	262人
配布率	95%	92%	95%	95%

健康増進課が実施している 3 歳児健診で、受診した子どもの保護者に保健師が絵本を配布していますが、健診を欠席した家庭（全体の約 6%）には届いていません。

今後、すべての家庭に絵本が贈られ、多くの親子が読書に親しむ機会が増えるよう、配布方法や選書を含め内容を検討する必要があります。

（3）サードブック事業の開始

平成 21 年度より、小学校の図書主任と学校司書、市立図書館司書が選んだ図書 20 冊の中から、希望の図書を小学 1 年生に 1 冊贈るサードブック事業を開始しました。小学校の協力のもと、配布率は 100%となっています。

〈サードブック配布実績〉

	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
対象人数	330 人	318 人	301 人	283 人	307 人
配布人数	330 人	318 人	301 人	283 人	307 人
配布率	100%	100%	100%	100%	100%

絵本や物語、科学読み物など、幅広い分野の図書の中から希望図書を選ぶため、図書館の展示を見に来る親子も多く、本について親子で語り合うきっかけとなっています。

このサードブック事業では、家庭で行う読み聞かせとともに、子ども自身の読書活動が習慣となり、図書館の利用促進に繋がるような取り組みを進める必要があります。

（4）公民館における図書と場所の提供

公民館では、読書に関するおたよりの配布や、公民館内の図書の設置場所、配架方法の工夫等による読書推進を図ってきました。

しかし、子どもの公民館利用は少なく、平成 26 年実施の「山梨市子ども読書活動推進計画に関する調査」（以下、「推進計画調査」という。）の結果によると、平成 25 年度に児童書を購入した館は 1 館のみ、朗読会等のイベントを開催した館も 1 館のみに留まっています。

また、公民館の児童書を小学校に移管した館も 1 館あり、児童書数は縮小傾向にあります。小学校に隣接する公民館が多く、小学生は学校図書館を利用するため、公民館図書室の利用に至らないことも原因と考えられます。このことに加え、図書購入費の減少や地域の少子高齢化が進んでいることもあり、公民館における子どもの読書活動の推進は難しい状況です。

今後は、図書の整備だけではなく、市立図書館からの出張おはなし会などを検

討して、公民館での読書機会を地域の子どもに提供し、読書活動を推進します。
また、学校図書館や保育園、児童センター、学童クラブなども協力して、地域における子どもの読書活動推進の役割を担っていきます。

2 保育園・幼稚園・児童センターなどにおける取り組みと成果及び課題

(1) 読み聞かせやおはなし会、読書タイムの実施

推進計画調査の結果によると、約半数の施設で日常的に読み聞かせや一緒に読書する時間を設けています。おはなし会は約 4 割の施設で行っていますが、さらに多くの施設で実施してもらうためには、保育士などにおはなし会の重要性を認識してもらい、年間の行事として定着させることが必要です。

(2) 大型紙芝居やパネルシアター※¹などの特殊資料の活用

誕生会や季節の行事などでよく利用されています。特殊資料はさまざまな形態があり、子どもたちにおはなしへの興味を抱かせるという効果が期待できます。今後、さらに利用機会を増やすことが望まれます。

(3) 年齢に応じた図書の充実

9 割以上の施設で図書を所蔵し、保育園と幼稚園については、園に置いてある図書のほかに、市立図書館からの定期巡回団体貸出の図書も置いてあるため、常時子どもたちの身近に図書があるという環境が整っています。

いつも子どもの手の届く場所に図書があるという望ましい環境を維持していくとともに、年齢に応じた図書を増やしていくことが重要です。

(4) 家庭との連携

家庭への本の貸し出しや読書推進を目的としたおたよりの発行は、ほとんどの施設で未実施です。施設内の読書活動に比べ、家庭に対しての読書活動の推進がなかなか行われていません。

施設内での子どもの読書の様子を保護者に伝えるなど、家庭と情報を交換しながら読書活動を啓発することが課題です。

今後、保育施設などと家庭、市立図書館が、協力して子どもの読書活動を推進する取り組みが必要です。

※1 … 布をベニヤ板などに張り付けてパネル舞台を作り、パネルに貼り付く絵人形を、貼ったり取ったりしながらおはなしを進めていく手法。

3 学校における取り組みと成果及び課題

(1) 学校図書館利用

学校図書館の利用向上のため、すべての学校でオリエンテーションが行われています。

また、各教科での授業や総合的な学習の時間に、毎月図書館で調べ学習^{※2}を行うなど、積極的に学校図書館が利用されています。

しかし、図書をどのように利用し授業に反映しているのか、学校司書と司書教諭、教員の情報共有が十分ではありません。学校図書館をさらに活用していくために、学校司書と司書教諭、教員が情報を共有し、密に連携していくことが期待されます。

(2) 読み聞かせや朝の読書等、読書の習慣化

推進計画調査の結果によると、すべての小学校が読み聞かせを実施しています。

朝の読書については、小学校、中学校、高校とすべての学校で行われ、普段、読書をしない子どもにとっても、本を手にする事ができる良い機会となっています。

今後は、いかに子ども自身の読書の習慣化に繋げていくかが課題となります。

(3) 図書委員会活動や読書に関わる行事の推進

図書委員会では、推薦図書リストの選定や図書委員会便りの作成、図書委員による生徒への読み聞かせなど、読書活動の啓発を目的にさまざまな活動を行っています。

また、図書集会やおはなし会という読書に関する行事は 9 割の学校で実施され、図書委員が運営に関わっています。

同年代である図書委員に啓発され、本に関心を抱く児童や生徒は少なくありません。今後も工夫した活動に取り組み、より一層の図書委員会活動の活性化が望まれます。

(4) 親子読書や家読^{うちどく}^{※3}の推進

親子で本を読み感想を語り合う親子読書は、読書をきっかけとした親子の触れ合いの場になると同時に、大人に対する読書への働きかけともなります。我が

※2 … 課題について、図書館を利用したり聞き取り調査をしたりして結果をまとめること。

※3 … 家族みんなで“おうちで読書”することをきっかけに、家族のコミュニケーションを豊かにしようという試み。山梨県教育委員会では、「しなやかな心の育成プロジェクト」の一環として取り組んでいる。

子がどういった本が好きなのか、読解力はどうかなど見守りながら、親自身も読書に親しみ、親子で読書の楽しさを共有することができます。

およそ4割の学校で実施していますが、生徒数が多い学校や、高校など年齢が上がってくると未実施になる傾向があります。親が本に興味を持つことは、子どもたちの読書推進に繋がります。そういった面からも、親子読書の推進が期待されます。

(5) 学級文庫の設置

学級文庫は8割の学校で設置され、身近に本がある環境となっています。選書の方法はさまざまですが、定期的に図書を入れ替えながら、今後も学級文庫を継続していく必要があります。

(6) 読書指導の充実

教員の読書指導に関する研究会などは、時間の確保が難しいことなどから、約6割の学校が行っていません。

しかし、読書指導の充実を図ることは、子どもに対する読書環境整備に繋がるだけでなく、教員自身が読書の必要性を認識するためにも重要です。教員と学校司書が協力して、今以上に子どもたちに読書する機会をつくっていく必要があります。

4 市立図書館における取り組みと成果及び課題

(1) ブックスタート、セカンドブック、サードブック事業

子どもたちの年齢に応じた本を贈り、本に触れる機会を増やすことを目的として、乳幼児を対象にはブックスタート事業、3歳児にはセカンドブック事業、小学1年生にはサードブック事業を実施しました。

一過性の読書で終わることなく、子どもが本の楽しさを知り、読書を習慣付けることや、大人も読書の大切さを改めて考える機会として、継続する必要があります。

(2) おはなし会の実施

平成13年度より、図書館ボランティア団体くれよんによるおはなし会を、毎月第2火曜日と、第4土曜日に実施しています。

- ・第2火曜日「チェリー」…乳幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせやわら

べうた、手遊び、ベビーマッサージなどを行う。

- ・第4土曜日「くれよん」…幼児から小学生低学年とその保護者を対象に、絵本の読み聞かせや手遊び、ブックトーク^{※4}、パネルシアターなどを行う。

〈くれよんおはなし会参加人数〉

		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
チェリー	平均参加人数	25人	18.3人	15.9人	17人	18.5人
	年間合計参加人数	300人	219人	191人	187人	204人
くれよん	平均参加人数	12.3人	14.9人	12.9人	9.5人	10.2人
	年間合計参加人数	135人	134人	142人	95人	102人

また、子どもと家族と一緒に楽しむことができ、本にも親しむことができるおはなし会「図書館子どもまつり」や「おはなしの広場」を、子どもの読書週間（4月23日～5月12日）や読書週間（10月27日～11月9日）に合わせて開催しました。

大型の紙芝居や絵本の読み聞かせや、人形劇の上演など、家庭ではなかなかできない読書体験の機会であり、おはなしの面白さに触れる場になっています。

〈おはなしイベント参加者数〉

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
図書館子どもまつり	111人	132人	149人	120人	120人
おはなしの広場	190人	131人	111人	128人	114人

さらに多くの子どもたちにおはなし会やイベントに参加してもらうためには、現在行っている保育園・幼稚園や小学校などへのチラシ配布、ポスター掲示、CATV放送、ウェブサイト^{※5}、SNS^{※6}、広報掲載という周知方法を継続するとともに、興味を持ってもらえるよう周知内容に工夫を凝らすことも必要です。

また、小学生のおはなし会への参加が減少傾向にあるため、さまざまな内容を企画し、開催回数を増やすことで、おはなし会の楽しさを発信していくことも必要です。

※4 … 1つのテーマに従って、数冊の本を順序立てて紹介すること。その目的は、紹介した本について読書意欲を起こさせることである。

※5 … インターネット上で特定の場所を指定できるアドレスを持ったページの集合体。「ホームページ」とほぼ同義語。

※6 … Social Networking Service(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の略。利用者同士が交流し、情報を広く届けることのできるウェブサイトのコミュニティ型会員制サービス。

(3) レファレンスサービスの充実

子どもの読書相談に応じたり、自発的に調べて学習したりするための、資料の提供や読書案内を行っています。

〈児童レファレンスサービス実施件数〉

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
月平均件数	15.2件	20.6件	10.5件	11.5件	17.5件
年間合計件数	183件	248件	127件	138件	210件

これからも子どもの読書相談と学びのために、充実した資料の整備と専門的知識を有する司書の養成、ブックリストの作成に努めることが大切です。

(4) 図書館見学や職場体験の機会の提供

図書館見学は、子どもが図書館の仕組みや利用方法を知り、図書館を身近な存在として感じ「図書館は面白い」「本を借りに行きたい」と思える機会を与えます。

職場体験は、学生がカウンター業務や配架作業などを体験することで、働く大変さを実感すると同時に、地域の図書館の役割を知り、図書館の存在を再認識する良い機会です。

小学校や保育園・幼稚園からは図書館見学、中学校や高校からは職場体験の受け入れを実施し、子どもたちに図書館というものを知ってもらうことができました。

〈図書館見学来館校数〉

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
見学校数	2校	2校	3校	4校	3校

〈職場体験人数〉

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
職場体験人数	8人	9人	10人	6人	10人

図書館職員の人数が限られているため、これまでの人員体制ではすべての要望を受け入れることが難しく、例年同程度の見学来館校数、職場体験人数となっています。

多くの子どもたちが図書館を知り本と関わるために、職員体制を充実し、図書館見学や職場体験の受け入れ増加が望まれます。

(5) ヤングアダルト（小学校高学年・中学生・高校生）コーナーの設置

第1次推進計画の期間中は、スペース的な制限もあり、ヤングアダルトコーナーの設置に至りませんでした。

しかし、読書離れが進む若い世代が、図書館を利用し本を選びやすくするために、ヤングアダルトコーナーの設置は必要です。

平成28年度開館予定の新山梨市立図書館では、大人向けのコーナーに隣接する形でヤングアダルトコーナーを設置する予定です。文学書を中心に、職業選択の助けになる図書など、青少年が求める情報を提供することができるよう資料の充実を図ります。

(6) 各施設への団体貸出の推進及び各教育関係機関との相互協力や学習支援

登録した各教育関係機関には、1施設50冊まで1ヶ月間貸し出す団体登録を利用して、図書を提供しています。

また、平成22年度から、市内の保育園や幼稚園には定期巡回団体貸出を開始しました。毎月30冊の図書（絵本や紙芝居、図鑑など）を貸し出し、日々の保育の中で読み聞かせに使われています。子どもたちは毎月違った本がくることを楽しみにしており、園の読書環境の整備に大きな成果があります。

しかし、教育関係機関との相互協力や学習支援については、十分に実施されていないのが現状です。

今後、団体貸出による図書の貸借や情報共有などの相互協力が図りやすくなるよう、学校図書と市立図書館とのネットワーク整備が必要です。

さらに、本を貸し出すだけでなく、市立図書館の司書が教育関係機関に出向き読み聞かせを行うなどのサービスも求められます。

(7) 情報の提供と発信

子どもを対象としたテーマ展示を行い、さまざまな内容の本との出会いを生み出しました。

これからは、子ども用の「図書館の利用案内」や「図書館だより」の作成、各種ブックリストの作成、図書館ウェブサイト子ども向けコーナーを新設するなど、さまざまな方法や内容で情報を発信していく必要があります。

(8) 資料の整備充実

平成26年度（平成27年3月31日現在）の資料の数では、紙芝居を含む図書124,642冊のうち、児童書は44,970冊で、全蔵書に占める児童書の割合は少なくありません。

しかし、古い本が多く、傷んでいても補充できていないのが現状です。子どもたちが求める図書・情報を把握しながら、さらなる資料の充実を図らなければな

りません。

平成 26 年には、洋書絵本を多く受け入れ、所蔵する資料形態の幅が広くなりました。すべての子どもが読書に親しむことができるよう、点字図書や録音図書などを、可能な範囲で備えることも必要です。

(9) 館内の環境づくり

これまでの市立図書館は、スロープはあっても書架と書架の間隔が狭いことや書架が高いこと、多目的トイレが設置されていないこと、授乳室がないことから、ユニバーサルデザインに基づく設備の充実が求められていました。

また、閲覧席が少なく、おはなしのコーナーも狭いため、ゆったりと本を選び読書を楽しむための環境が整っていませんでした。

すべての子どもたちにとって利用しやすい図書館であるためには、館内の充実した環境づくりが不可欠です。新山梨市立図書館では、多目的トイレやエレベーター、授乳室の設置、閲覧席の増設、おはなしのコーナーの拡充を予定しています。

(10) 子どもの読書活動推進に取り組む職員の体制づくり

平成 27 年度は図書館司書が増員されましたが、円滑な図書館運営と児童サービスを行うため、また、新山梨市立図書においては子どものコーナーが充実することから、専任の図書館長の配置や適切な人的体制が必要です。

さらに、専門的な研修に積極的に参加し、培った知識や技術を児童サービスに活かし、子どもたちに還元していくことが求められています。

(11) 図書館ボランティアの育成

図書館ボランティアくれよんは、月 2 回のおはなし会と、図書館子どもまつりで読み聞かせを実施しました。

人形劇団こんぺいとうは、おはなしの広場で人形劇を上演しました。

現在は 2 団体の協力のみですが、今後、図書館業務を効率的に進めていくためには、多くの図書館ボランティアの協力が必要です。

今後は、図書館ボランティアを育成し、市立図書館と図書館ボランティアのさらなる協働に取り組まなければなりません。